

2025～26年度 RI第2650地区

創立 昭和36年6月28日

承認 昭和36年8月 3日

勝山ロータリークラブ週報

例会日 毎週火曜日 12:30～13:30

例会場 勝山市市民交流センター

〒911-0811 福井県勝山市片瀬町1丁目402番地

TEL 0779-87-7761 FAX 0779-87-7760

URL: <https://rid2650.gr.jp/club-katsuyama>

Email: katsuyamarc@gmail.com

■会長 滝川 博則 ■幹事 辻 利津子

編集発行・文責 公共イメージ委員会

会長メッセージ

～ 縁（えにし）を継なぐ ～



第3093回 例会 (9月9日)

勝山・大野合同ガバナー公式訪問例会

勝山・大野ロータリークラブバナー贈呈

大野ロータリークラブ青木会長 点鐘

国歌・ロータリーソング・「奉仕の理想」「四つのテスト」斉唱

●勝山ロータリークラブ会長挨拶

滝川 博則



本日は小崎ガバナー様、松田ガバナー補佐様、小滝地区幹事長をお迎えしての2025-2026年度大野勝山合同のガバナー公式訪問でございます。

御三方にはお忙しい中、この奥越前勝山の地までお越しいただけた事心から感謝申し上げますとともに、本例会を開催できますこと大変嬉しく存じます。

午後2時より勝山ロータリークラブが、午後3時から大野ロータリークラブのガバナー会長幹事懇談会を終えました事を皆様にご報告申し上げます。

さて、本会場の勝山花月楼は昭和36年6月29日に勝山ロータリークラブの創立総会が開かれたという勝山ロータリークラブにとっては原点ともいえる場所です。

本年、64年の歳月が流れ、来年は65年という節目の年を迎えます。あらためてこの場所にたちまして先輩諸兄のロータリー活動の積み重ねに敬意をはらうとともに、小崎ガバナー様のメッセージ「未来につなぐ」にありますようにこの地におけるロータリー活動を切らすことなく、ロータリーだからこそその縁を未来に繋いでいきたいと思っています。

本日はこの後、恒例の合同懇親会もでございます。長時間になりますが、本日ご参集の皆様よろしくお祈り申し上げます。

●出席報告

山内 智子

9月9日 欠席6名 72.73%

9月2日 欠席1名 95.45%

●ニコニコ報告 笠松 誠一

ガバナー公式訪問に際して

小崎学ガバナー
松田祐一ガバナー補佐
小滝寛地区幹事長



●大野ロータリークラブ会長挨拶

中川 宗之



本日はガバナーの小崎学様、ガバナー補佐の松田祐一様、地区幹事長の小滝寛様、福井県の奥越前の地までお越しいただきまして、本当にありがとうございます。

また、今回は滝川会長をはじめとする勝山ロータリーの皆様に大変お世話になりますのでよろしくお願い致します。

さて、小崎ガバナーの地区基本方針は「未来につなぐ」と定められ、またロータリーの財産は会員であり、その活力を維持しさらなる発展を続けていくことを目指しておられます。大野のロータリーは現在39名と40名を切ってしまいましたが、先日亡くなられました千玄室様が、今年の会長エレクト研修セミナーでの特別講演の中で「本当に一番安定して、楽しいロータリー会員数は50名がいいんじゃないかな」ということとお話しされました。なるべくこの50名を目指して会員増強を行い、大野クラブの基盤を固めていきたいと思っています。また、大野・勝山ロータリーが交流を活発にして、素晴らしい人間関係をこれから築き、各々のクラブの強みを磨いて、進化として対外的に進化を伝えることが新たなメンバーを作り、退会防止に役立っていくと思いますので、各々両ロータリーを励まして頑張っていきたいと思っています。本日は、これから小崎ガバナーのアドレスをいただき、今後のクラブ活動に反映していきたいと思っています。ご指導をよろしくお願い致します。

ガバナー・会長幹事懇談会の様子



本 日 プログラム	ゲスト卓話 中村 剛 氏	9月23日 9月30日	休会	10月7日 プログラム	会員卓話	10月7日 プログラム	ゲスト卓話 米山奨学生
-----------------	-----------------	----------------	----	----------------	------	----------------	----------------

小崎 学 ガバナーアドレス



自己紹介と両クラブとの縁

所属・職業：京都北ロータリークラブ所属。職業は建設業で、京都府建設業協会の会長も務める。

勝山との縁：顧客の関係で越前大仏の法要に毎年参加。また、子供とスキーで訪れた経験もある。

大野との縁：会長幹事会の出席者が全員建設業であったことに驚き、会員の息子が入会している世代継承の形を高く評価。

創立年との縁：勝山RC（1961年創立）、大野RC（1963年創立）の時期が、自身の生年（1962年）や、所属クラブ初のガバナー輩出年（1962年）と重なることに言及。

地区基本方針の背景

着想の原点：所属クラブの初代ガバナーが大切にしていた「良心の醸成」という言葉（新島襄の言葉）に感銘を受けた。

言葉の意味：人間が持つ良い心は、育み、鍛錬し続けなければ備わないという考え。

方針への反映：この「良心の醸成」という言葉を地区基本方針の中心に据えたいと考えました。

故・千玄室大宗匠の教えと平和への考察

大宗匠との思い出：大宗匠はガバナーエレクト研修で講演し、地区大会での講演も約束していたが8月に逝去。6月の最後の対面で「しっかり頑張るんで、皆さん応援したってくれ」と背中を叩かれ激励された感触が今も残っている。

平和への教え：特攻隊に志願した経験から、平和とは単に紛争がない状態ではなく、人と人との諍いをなくすことだと説いた。「我先、我先」という考えが争いを生み、「お先にどうぞ」という譲り合いの気持ちが平和を築くと教えられた。

国際協議会での学びと出来事

ロータリー伝達の難しさと訓練：米国での国際協議会で、ロータリーを知らないパートナーに活動を説明する難しさを痛感し、それが新入会員候補者への説明の良い訓練になった。

悲しい出来事：共に国際協議会に参加した同期のガバナーエレクトが、現地でインフルエンザに罹患し、帰国後5日で逝去したことを報告。

国際ロータリー（RI）の動向と方針

RI会長の交代とメッセージの継続：2023年6月、会長エレクトの辞任に伴い会長が交代したが、RI本部からの指示で国際協議会で共有されたメッセージはそのまま有効とされた。

RI会長テーマの廃止と歴史的背景：2022年10月、抽象的で単年度達成が困難な「テーマ」を廃止し、今後は「メッセージ」として発信することが議決された。これは、2007年以降策定されてきた戦略計画やビジョン声明といった継続的な方針を反映したものである。

方針の継続性と今後の見通し：現在のRIは事務総長（CEO）が組織運営を主導しており、方針の継続性が重視されている。今後もこの路線は維持される見込み。

今年度の基本方針と未来へつながるクラブ像

「変化」と「人」：ロータリー最大の財産は「人」（会員）であり、「すべてを同じままに保つには、すべてを変えなければならない」という言葉に象徴されるように、クラブの本質を守るためにこそ変化が必要である。クラブ活性化の柱は「革新」「継続性」「パートナーシップ」。

未来へつながるクラブの5つの要素：

1. 会員の尊重：多様な価値観を尊重し合う絆が強さの源。
2. 人材の育成：例会や活動を通じて学び続け、背中から次世代に伝える。
3. 変化への対応：固定観念にとらわれず「守るために変える勇気」を持つ。
4. 信頼の醸成：一人ひとりが主役となり、互いを信じ尊重する場を作る。
5. 地域を超えたつながり：地区内の他クラブとの連携で可能性を広げる。

会員増強へのアプローチ：魅力あるクラブ作りが会員増強の基本であり、クラブ全員で取り組むべき課題。前を向いて仲間を増やし、メンバーが仲良くしている姿を街中で見せることも有効な魅力発信となる。

クラブ・地区運営に関する具体的提案

地区セミナーの運営改善（ハイブリッド形式の検討）：WEB参加の利便性と対面の良さを両立させるため、サテライト会場方式の導入を提案。県内数か所に会場を設け、参加者がスクリーンで共に視聴し一体感を得る形式を検討する。

質の高い奉仕事業の進め方：事業の質と信頼を高めるため、クラブ内で以下の6つの問い（1. 誰のために 2. なぜ 3. 何を 4. いつ 5. どこで 6. どうやって）を共有することを推奨。

持続可能なクラブ運営（中長期的計画の推奨）：RIが推奨する3年間のローリングプランを導入し、単年度ではなく中長期的な視点でクラブ運営を行うことを提案。企画から実行まで時間をかけ、事業後のモニタリングと成果測定で次につなげることが重要。

1913年1月1日 ポール・ハリスが述べた言葉より

私たちはいつまでも成長して止むことはないでしょう。世界が絶えず進化しています。そして、私たちは世界とともに変化する心構えがなければなりません。ロータリーの物語は何度も何度も書き換えなければならないでしょう。最後に私から、変化を恐れず、仲間を信じ、学び合い、支え合う、そうした歩みの中に未来につながるクラブの姿があると信じています。クラブの未来は、私たち一人ひとりの行動にかかっています。共に学び、共に奉仕し、次の世代にバトンを渡していこうではありませんか。



勝山・大野合同懇親会

勝山RC和田達也会長エレクト挨拶



松田祐一ガバナー補佐による乾杯



山内智子会員のお子様達と
宗生流剣詩舞道総本部生による剣詩舞
漢詩や和歌を吟じる「吟詠」
に合わせて刀や扇を持って舞
う日本古来の伝統芸道です。

舞は大変素晴らしく、皆様見
入っておられました。



大野RC指岡会長エレクト
による締めのご挨拶

